

1 ねらい 「ともに生きる」

福祉というと障がいのある人やお年寄りなど一部の限定した人たちへの活動と捉えがちですが、それは福祉の一部でしかありません。福祉は、すべての人が社会の構成員として幸せに生きるための活動を意味します。

福祉教育を通して、身の回りにある偏見や差別などをなくすための「気づき」に働きかけ「ともに生きる」ということの大切さを身につけてほしいと願っています。

この冊子は、児童・生徒に対し福祉教育を実施している学校の先生方や地域で活動しているみなさまに活用していただくために作成しました。

2 活用方法

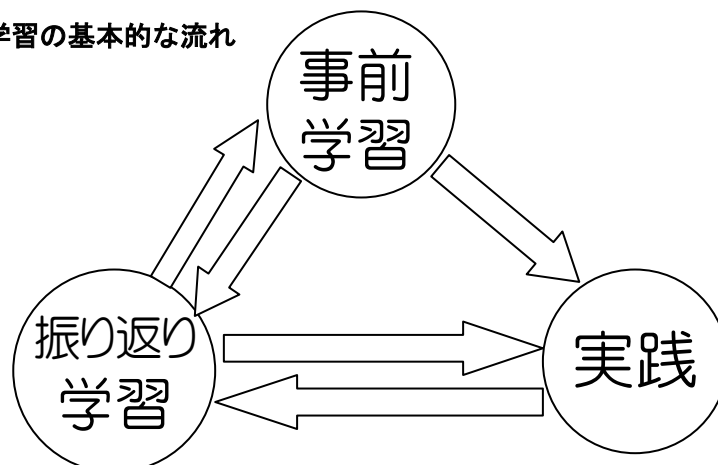
この冊子は、「福祉学習のプロセス」と「インフォメーション」の構成になっています。

「福祉学習のプロセス」では、福祉学習を進める基本的な流れ(事前学習⇒実践⇒振り返り学習)【図1】についての説明と、実際に取り組んでいただく学習素材について、できるだけ具体的に紹介しています。

また、学習素材の組み合わせ方や次のプログラムへのつなぎ方について、学習素材の一覧表とプログラム例により紹介しています。

「インフォメーション」では、プログラムを作成するにあたり、参考となる市内の福祉情報を中心に紹介しています。

【図 1】福祉学習の基本的な流れ



3 福祉学習のプロセス

これまで市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）が学校や地域で提案・実施してきた福祉学習は、実践を重視したプログラムが中心でした。

この福祉教育プログラムでは、身近なテーマからスタートし、事前学習→実践→振り返り学習へと進め、より「支え合い」や「ともに生きる」ことの大切さを実感できるよう配慮しています。そして、振り返り学習から引き出したさまざまな気づきを新たな事前学習や実践へつなげていく、繰り返しを重視しています。

【図2】【表1】

【図 2】 車いす体験を例とした福祉学習のプロセス比較

【これまでの主なプログラム】

①事前学習

車いす利用者は、どんなことを不便と感じているか、手助けするためのものは何かを考える



②実践

車いす体験



③振り返り学習

体験の感想文を書く



終了

【つながるプログラム】

①事前学習

車いす利用者は、どんなことを不便と感じているか、手助けするためのものは何かを考える



②実践

車いす体験

不便なこともあるけど、いきいきとしている…



③振り返り学習

感じたこと、疑問に思ったことなどを発表し、みんなで話し合う



④新たな事前学習や実践

☆障がい者スポーツについて調べる

☆私たちにできることを考える

☆自分たちのまちについて考える

（福祉マップ作成）

ちょっとした心配りが、障がいをもつ人の手助けになる

車いす利用者にとっての不便＝みんなにとっての不便

【表 1】 車いす体験を例とした福祉学習のプログラムのイメージ

	区 分	学習内容		ねらい
1	事前学習 1	「障がい」 って何だ ろう？	どんなイメージ かを書き出す	児童・生徒がどんなイメージを持っている かを認識する
2			ゲームで「障が い・違い」につい て考える	「障がい」のイメージも、障がい者も健 常者も人それぞれ違うということを認 識する
3			調べる	「障がい」には、その人の機能や能力の 「障がい」の他、物理的・心理的「障が い」があることを理解する
4	実践1	学校や自宅周辺の物理的障 がいについて調べる		身近な地域について調べることで、関 心を持ちやすい
5	事前学習 2	車いすについ て調べてみよ う！	どんな人が どんな時に 使うのか調 べる	車いす利用者や車いすのしくみについ て予想する
6			車いすはど こにあるの か調べる	
7	実践2	車いす体験・講義		車いす利用者の生活や思い、車いすの しくみ・操作方法について学ぶ。また、 利用者だけでなく介助者の体験も行う ことで、介助の際の気遣いの大切さ・エ チケットに気付く
8	振り返り 学習1	講師の話・体験で印象に残っ たことについて書きとめる		体験前のイメージと体験後の感想によ り、意識の変化を認識する
9		自分が感じたことについて発 表し、みんなで話し合う		友達の感想を聞くことで、さまざまな 思いを知る
10	実践3	マップ づくり	以前調べた 地域につい て、車いすで 通ってみる	前回は物理的障がいのみを調べたが、 障がいに対応した、やさしさ・安心を感 じるものを調べ、「ともに生きる」ことの 大切さを意識づける
11	振り返り 学習2		発表	今まで学習してきたことと、自分たち の理想のまちについて話し合い、発表 する

※そのほかのプログラム例は P26～31 に掲載しています

具体的な学習素材は、福祉学習の基本的な流れに沿って、(1)事前学習、(2)実践、(3)振り返り学習のプロセス順に紹介しています。また、学習の目的に応じて自由に選択できるよう、学習素材一覧表としても紹介しています(P25)。

なお、それぞれの学習素材は、内容によってさまざまな学習目的に対応するものもあるため、選択時のヒントとして、下記の分類項目を記載しています。

【分類項目】

福祉の理解…吉、障がい者の理解…、高齢者の理解…、福祉施設の理解…
地域の理解…、ユニバーサルデザイン…、ボランティア…

(1) 事前学習(目標と方法を決めよう)

事前学習の方法は、下記のような方法があります。

- ・辞書や関連図書、インターネット、新聞などで調べる
- ・個人でイメージして整理する
- ・個人で調べたこと、イメージして整理したものをグループで話し合い、共有する

そこで、目的や時間数に応じて内容を選択することができるよう、次の「ア 調べる項目」「イ ゲーム」「ウ グループワーク・話し合いのテーマ」の三つの項目で区分しています。

【表 2】 車いす体験を例とした事前学習のイメージ

		学習内容	ねらい
1	「障がい」って何だろう？	どんなイメージかを書き出す	児童・生徒がどんなイメージを持っているかを認識する
2		ゲームで「障がい・違い」について考える	「障がい」のイメージも、障がい者も健常者も人それぞれ違うということを認識する
3		グループで「障がい」について、調べてまとめる	「障がい」には、その人の機能や能力の「障がい」のほか、物理的・心理的「障がい」があることを理解する
4	学校や自宅周辺の物理的障がいについて調べる		身近な地域について調べることで、関心を持ちやすい
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 次のステップへ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
5	実 践	車いす体験・講義 など	
6	振り返り学習	感想についてみんなで話し合う など	
↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 学習のつながり・発展 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			
7	車いす体験や事前学習をさらに深めるための実践へ (例:マップ作成 など)		振り返り学習から引き出した「気づき」から、新たな事前学習や実践へ (例:ユニバーサルデザイン など)

ア 調べる項目

	項目例	分 類
1	「福祉」って何だろう？	吉
2	どんな福祉サービスがあるんだろう？	吉・・ ・
3	「福祉」から思い浮かぶものを挙げてみよう。	吉
4	「障がい」って何だろう？	・
5	障がい者（視覚・聴覚・肢体不自由・知的・精神など）、高齢者は市内に何人くらいいるのだろう？	・・
6	車いすについて（歴史・種類・どこにおいてあるか？）	・
7	目が見えない、耳が聞こえない、歩くことが困難な障がい者や高齢者などは、どんなことに不便を感じているか？ 日常生活はどのようなものか？	・・・
8	身の回りにある、障がい者（ 高齢者 ）の生活を手助けするためのものを挙げてみよう。	・・・
9	お年寄りは何歳から？	・
10	年をとるってどういうこと？（高齢者のイメージ、特性）	・
11	自分の身近にいるお年よりは、どんな人たちがいますか？	・・
12	身の回りには、どんな施設がありますか？	・
13	自分の住んでいるまちはどんなまち？（歴史、社会資源、地域の活動者など）	・
14	「バリアフリー」の「バリア」って何？	・
15	身の回りにある、ユニバーサルデザインを調べてみよう。	・
16	ボランティアって何？（ボランティアと聞いて連想するものは？）	・
17	どんなボランティア活動があるんだろう？	・

イ ゲーム

(ア) 「福祉連想ゲーム」

吉

- ①「福祉」と聞いて思いつく言葉を並べてみる。
- ②並べた言葉からさらに思いつく言葉をつなげていく。
- ③出てきた言葉から「福祉」とは何か、考え、話し合う。
- ④連想ゲームから生まれたイメージと国語辞典と比較してみる。

→「福祉」について自分の抱いているイメージを把握した上で、福祉の意味を正しく理解する。福祉は自分やみんなの幸せを求める活動であること、自分も福祉の対象であることを知る。

(イ) 「違い」って何だろう？

吉 ・

- ①全員起立して、目をつむる。
- ②「よーい、スタート！」の合図で、心の中で1分間を数える。
- ③1分たったと思ったら、その場で静かに座る。
- ④一番早く座った人、一番遅く座った人の秒数、その差を記録する。

→真実の一つでも、人によって捉え方が違っていることを認識する。物の単位でさえ捉え方が違うのだから、「障がい」「福祉」など観念的なものは、人それぞれ違っていて当たり前。見た目の違いやできるできないの違いもあるが、「障がい」をどう捉えるかによっても違ってくる。

(ウ) 「障がい」って何だろう？

・

- ①スタートの合図で、周りの人とジャンケンする。
- ②同じ人とはしないように、いろんな人とジャンケンする。
- ③勝った数と負けた数を覚えておく。
- ④5回勝った時点で、早い人から順番に並んで輪を作る。
- ⑤残っている人がジャンケンをした人ばかりになってしまったら、同じ人とでもOK。
- ⑥成績は、何勝何敗、何番目、何人とジャンケンしたかを記録する。

→一番早かった人から何勝何敗だったか、その心境を聞いてみる。早いものが勝者だという価値観、現代社会の価値基準、障がいを持たない者と持つ者の違いをリセットし、出会いや時間共有の価値観を持つ。

(エ) 「目がみえないこと」ってどんなこと？

・ ・

- ①起立して目をつむり、司会（目はあけている）とジャンケンをする。
- ②「ジャンケンポン」でジャンケンして、司会は「〇〇を出した」と言う。
- ③勝ったら立ったまま、負けかあいこの場合は座る。
- ④座った人は目をあけても OK。
- ⑤最後の一人になるまでジャンケンをする。

→アイマスク体験より恐怖感なく、視覚障がい者体験ができる。このほか、目を閉じたまま、お昼ごはんを食べたり、ノートに絵を描く、目の不自由な人が使いやすいように工夫された商品を探してみる などの体験をしてもよい。

(オ) 「耳が聞こえない・しゃべれないこと」ってどんなこと？

・

- ①司会が「〇〇な人、集まってください」と言う。
 - ②声を出さずに、同じ仲間を捜してグループを作る。
 - ③全員集まったら、その場で座る。
- ※声を出さなければ、紙に書く以外はどのように行動しても OK。

→聴覚障がい者の日常を体験し、言葉（手話）以外のコミュニケーション（ジェスチャーや空書でもある程度はコミュニケーションがとれること）を確認する。

(カ) 「手や足が不自由であること」ってどんなこと？

・

- ①右手と左手で自分の名前を書いてみる。

→利き手でなくてもうまく書ける、あるいは練習すれば上達する。うまく書けなくても、個性的な字になる。もし、両手が使えなくても、口で、足で、パソコンなどで、方法はたくさんあることを知る。

(キ) 「ボランティア」って何？

- ①人数分のイスを用意し、輪になって座る。
- ②いくつかのイスを抜き、歌を歌ってイスの周囲を回る。(通常のイス取りゲームと同じ)
- ③歌が止まったときに、全員がいずれかのイスに座る。一つのイスに何人座ってもかまわない。
- ④どんどんイスの数を少なくしていき、協力して全員イスに座る。

→「ゲームでは気軽に席を譲れても、電車などでお年寄りに席を譲れるか」「席を譲ったとき、譲られたとき、どんな気持ちでしたか」など、ゲームを通じてボランティアする側される側の気持ちについて考える。また、イスの数が少なくなってくると、みんなで協力しなければ、座ることができないため、ボランティアする側される側という感覚はなくなってくる。

(ク) 福祉クイズ

吉

障がい者のための国際シンボルマークを始めとしたさまざまな障がい者マーク、福祉の制度やサービスに関するクイズを出題する。

→クイズは、グループごとに分野を設定し、事前学習の発表を兼ねて出題することもできる。

ゲームは、静岡市社会福祉協議会及び伊賀市社会福祉協議会の福祉教育プログラムを参考にしています。

ウ グループワーク・話し合いのテーマ

個々の調べ学習やゲームなどのまとめとして、あるいは、実践を踏まえた振り返り学習までの一貫したまとめとしてグループワークや話し合いを行うことは、意見の共有や新たな気づきにより、イメージを膨らませ、次の学習内容につなぐために、重要な学習となります。

ここでは、「ア 調べる項目」で挙げた項目例の他に、グループワークや話し合いのテーマを紹介します。

	テーマ	分 類
1	いきいき人生度チェック(今の生活は幸せか？幸せな人生を送るためにはどうしたらいい？)	吉 . .
2	家族やクラスでの役割(人にはそれぞれ役割がある。自分の役割は？)	吉 . .
3	自分と友達の色を考える(自分自身のイメージと友達から見た自分のイメージについて)	吉 . .
4	社会と自分を見る(自分はどんな人間？他人にどんな人間とされている？周りにはどんな人がいる？)	吉 .
5	自分たちのまちを知る(校区内を点検し、住みやすいまちづくりを考えるきっかけとする。例えば、車いす利用者の気持ちになって…など)	
6	自分たちでできるボランティア活動を考える。	.

(2) 実践(実際に取り組んでみよう)

事前学習で調べたことや話し合ったこと、もしくは企画したことを実際に体験・交流することで、さらに学習を深めます。

ア 疑似体験・福祉体験

車いすやアイマスクなどの疑似体験では、「怖い」「かわいそう」「大変」というネガティブな一面を強調しがちで、かえって偏見や差別を助長してしまうことも考えられます。事前学習だけでなく、当事者の話を聞いて体験したり、振り返り学習でのフォローアップなどが大切です。

点字や手話などの福祉体験では、コミュニケーションの一環としての体験であるという視点がないと、単なる技術習得のための体験となってしまうます。当事者の話を聞いたり、振り返り学習でのフォローアップなどが大切です。

	内 容	分 類
1	車いすの取り扱いについての学習・体験	吉 ・ ・
2	車いすバスケなど、障がい者スポーツについての学習・体験	吉 ・
3	車いすマップづくり	吉 ・ ・
4	おもり・サポーターを装着して歩行・買い物体験	吉 ・
5	高齢者の介助体験	吉 ・
6	点字のしくみについての学習・体験	吉 ・
7	点字で手紙を書く	吉 ・
8	手話の学習・体験	吉 ・
9	OHPを使用しての要約筆記の学習・体験	吉 ・
10	ガイドヘルプの学習・体験	吉 ・
11	日常生活用具を使ってみる	吉 ・
12	盲導犬による歩行体験	吉 ・

👉 講師や物品貸出の情報は、インフォメーションのP55～56をご覧ください。

イ 社会福祉施設訪問

福祉施設において、高齢者や障がい者、児童との交流を通して、対象者との接し方やどのような手助けが必要かを考え、福祉の仕事についての理解を深めます。

ただし、施設訪問では生活の一部を見るに過ぎないため、誤解が生じる場合があります。事前や振り返り学習によるフォローアップが大切となります。

☞施設の情報は、インフォメーションのP36～49をご覧ください。

ウ 福祉行事サポート

福祉行事とは、市社協を始め、市内の施設やNPOなどが行う福祉関連の行事を対象とします。福祉行事でのお手伝い(ボランティア活動)を通して、福祉や参加者への理解を深めます。

・市社協行事の手伝い

(例:福祉のつどい、古本バザールなど)

・施設、NPOの行事の手伝い

(例:夏まつり、障がい者レクリエーションなど)

☞行事の情報は、市社協もしくは、福祉施設(インフォメーションのP36～49)に直接お問い合わせください。

エ 地域行事サポート

地域での行事(地区社会福祉協議会、区・町内会など)のお手伝い(ボランティア活動)を通して、身近な地域で行われている交流や支え合いの活動について理解を深めます。

・地区社会福祉協議会(以下、「地区社協」という。)行事の手伝い

(例:三世代交流グラウンドゴルフ大会など)

・区・町内会行事の手伝い(例:夏まつり、敬老会など)

☞行事の情報は、市社協までお問い合わせください。

オ 高齢者の知識・知恵を学ぶ

高齢者の知識や体験、伝承遊びや伝統技術などを学ぶことで、高齢者は手助けを受ける「受け手」だけでなく、「担い手」でもあることを理解し、「ともに生きる」大切さについて理解を深めます。

- ・知識や体験、技術などを学ぶ(例:地域の昔、伊勢湾台風、仕事など)
- ・ものづくりを通して学ぶ(例:ワラジづくりなど)
- ・遊びを通して学ぶ(例:お手玉、コマ遊びなど)

📖 講師の情報は、インフォメーションのP34, 44～53をご覧ください。

カ 当事者・施設職員の講義(体験談)

「障がい」を知る・理解するひとつの方法は当事者の生の話を聞くことが考えられます。

また、施設を知るには実際に訪問して肌で感じることも必要ですが、利用者にとっては生活の場所であるので配慮が必要です。受け入れの人数に制限がある施設訪問ばかりではなく、施設利用者や職員の話聞くこと、ともにになにかを体験することで同様の効果を求めることもできます。

(ア) 当事者・介護者の講義・交流

障がいや加齢に伴う不便さを伝える内容だけでは、「かわいそう」「大変」「自分は障がいが無くてよかった」という感想で終わってしまう可能性があります。

そこで、障がいなどによる不自由さを知るとともに、障がい者の望む(助かる)手助けとはどんなことか、障がい者は機能の一部が損なわれているだけで、一般の人と何らかわらない夢や希望を持っていることをテーマとして取り上げ、障がいとともに生きていく姿勢が伝わるような内容が望ましいでしょう。

a 講義主体の内容

	テーマ	分 類
1		目が見えないってどういうこと？（視覚障がい）
2	障がいについて（障がいによる不自由さと残存能力）	耳が聞こえないってどういうこと？（聴覚障がい）
3		聴覚障がいのある人とのコミュニケーション方法（聴覚障がい）
4		中途失聴者とのコミュニケーション方法（聴覚障がい）
5		自助具や補助具について
6	私の日常生活	補助犬（盲導犬・聴導犬・介助犬）について
7		施設の1日
8		施設生活の中で感じること、不便なこと、助かること（⇒施設は生活の場ということを知る）
9		障がいを持ちながらの人生での希望について（やりたい事、行ってみたい所など）
10	私の望むもの	障がい者スポーツについて（盲人卓球、盲人サッカー、車いすバスケットなど）
11		障がいを持たない人に期待すること
12	幸せについて（障がいの有無を超えた、日々の幸せを確認する）	
13	差別や偏見について（どんなことが偏見や差別と感じるか、知らないことが誤解や偏見の始まりと気づく）	

b 交流主体の内容

共に何かをすることで、できること・できないことを知るとともに、自分がすべきことを見つけます。「してあげる」ことだけではなく、「見守る」「手を貸さない」ことも大切と気付くことで、共生の心を育みます。

【例:食事会・お遊び会などの交流会の開催】

また、当事者の得意分野についての実演・体験により、新たな発見や価値観の変化が期待できます。

【例:車椅子バスケット、絵、楽器、パソコンなど】

【分類項目】 吉社の理解 ・がいの理解
・齢者の理解 福祉・設の理解 ・域の理解
・ニバーサルデザイン ・ランティア

(イ) 施設職員の講義

施設職員から話を聞くことにより、仕事の内容や職業を通しての福祉を伝えます。職業として携わる者の想いを聞くことで「福祉」において重要な視点、専門職としての経験からの学びにより、新たな気づきを促します。

	テーマ		分類
1	なぜ施設職員になったか	どうしてこの職業についたのか	吉・・・
2		どんな仕事をしているのか	吉・・・
3		どんな想いや価値観を持っているのか	吉・
4	利用者への支援や援助について 仕事を通して得たもの・学んだこと	自立を支援するとはどんなことか	吉・・
5		どんなことを大切にしているのか	吉
6		新たな気づきや喜びを伝える	吉
7	施設のあり方について	生活の場、訓練の場としての施設の役割を伝える(生徒参加で「みんなの理想の施設とは?」など)	吉・

(ウ) ボランティアの講義(体験談)

住民参加を通しての福祉を伝えます。ボランティア活動の理解を深めるとともに、地域や活動への想いを聞くことで、支え合いの大切さ＝ともに生きる心を育みます。

全テーマ共通 ・

	テーマ	
1	ボランティア活動について	ボランティア活動の4つの原則
2		ボランティア活動に大切なもの、こと
3		どんなボランティア活動があるのか
4	なぜボランティア活動をしているのか	どうしてボランティア活動を始めたのか
5		どんな思いや価値観をもって活動しているのか
6	ボランティア活動を通して得たもの	新たな気づきや喜びについて

キ バリアフリーの調べ学習

地域には子どもから大人、高齢者や障がいを持つ人まで様々な人が住んでおり、生活を共にしています。それら一人ひとりが生活しやすいように地域では工夫されていることを知ることで、共生を意識するきっかけとなります。

この内容を実施するには、バリアフリーに関する事前学習が必要となります。さらに、実践後は発表などを通して情報を共有することで新たな気づきを促したり、調べた結果によるバリアフリーマップを作成・提供することで、学習の成果を地域住民へ還元・共有することもできます。

ただし、調査した場所によっては、バリアフリーを見つけられない可能性もあります。「もしも〇〇（目の見えない人、耳の聞こえない人、お年寄り…など）だったら」という設定を考えると見つけやすいこともありますが、「どこがどう不便なのか（バリアを見つける）」「なぜ見つからなかったのか」「みんなが使いやすいようにするにはどうしたらいいか」など視点を変えたり追加する必要があります。

ここでは、バリアフリーの調べ学習として、学校・公民館・駅・公園・学校付近の施設（子どもたちで場所を決めてもよい）などを訪れ、建物そのものにどんなバリア（障がい）・バリアフリーがあるかを調べるときのチェック項目と、目的地までの経路を調べるときのチェック項目について紹介しています。

(ア) 建物を調べるときのチェック項目

「〇〇を探検しよう!」といったテーマなどで目的地を訪れ、「バリア(障がい)」もしくは「バリアフリー」と思うものを探することで、身近な場所にある福祉について理解します。

	バリアに関するチェック項目例	分 類
1	段差の存在	吉・・
2	通路やドアの間口の広さ(車いすで移動できるか?)	吉・・・
3	通路や階段の明るさ	吉・・

	バリアフリーに関するチェック項目例		分 類
4	視覚障がい者対応	点字	吉・・
5		点字ブロック	
6		音声ガイド	
7		補助犬対応店舗(施設)	
8	肢体不自由者対応	スロープ	吉・・・
9		車いすガード	
10		低位置オペレーション	
11		補助犬対応店舗(施設)	
12		車いす対応車両(低床バス)	
13		手すり・エスカレーター・エレベーター・自動ドア	
14		多目的トイレ	
15		バリアフリー住宅(ドアノブ・廊下幅・手すり・段差無し など)	
16	聴覚障がい者対応	非常用回転灯	吉・・
		補助犬対応店舗(施設)	

(イ) インフラ・環境を調べるときのチェック項目

「〇〇に行ってみよう!」といったテーマなどで、目的地までの経路にどんな障がいやバリアフリー対応の場所があるかを探することで、身近な場所にある福祉について理解します。

全テーマ共通 吉

バリアに関するチェック項目例		
1	道路 (車道)	道路の両端の傾斜
2		空き缶や石などの存在⇒道路環境の清掃維持とモラル向上
3		放置自転車などの存在⇒駐輪場の整備とモラル向上
4		違法駐車の影響
5		坂道の確認
6	歩道	歩道の幅員(車いすで移動可能できるか?)
7		段差の存在(店舗や車庫の前など)

バリアフリーに関するチェック項目例		
8	歩道	車いすで移動できる幅員のある歩道の設置
9		段差解消のためのスロープの存在
10		ガードレールの存在
11		グレーチングの存在
12	交差点	音声ガイドの存在
13		押しボタンの位置の確認(ボタン式信号機)
14		点字ブロックの存在

ク ユニバーサルデザインの調べ学習

ユニバーサルデザインは、デザインの対象を障がい者に限定するのではなく「できるだけ多くの人利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトです。言い換えれば、障がい者にとっても使いやすいものは、一般の人にも使いやすいものであるということです。【表3】

この内容を実施するには、ユニバーサルデザインに関する事前学習が必要となります。また、グループごとに「もしも〇〇（目の見えない人、耳の聞こえない人、お年寄り…など）だったら」と設定したもとで実践し、グループ発表で情報を共有することで新たな気づきを促します。

全テーマ共通 ・

ユニバーサルデザインに関するチェック項目例	
1	階段の手すり・階段の滑り止め
2	照明付きの電気スイッチ
3	レバー式の水道
4	プリペイドカードの扇状溝
5	牛乳パック等の扇状溝
6	缶ビール（おさけ）の点字表示
7	シャンプーの容器にあるギザギザ模様（リンスとの識別）
8	暖房便座

正解・不正解はないので、自由な発想で「自分・障がい者・高齢者を含めた誰にでも使いやすいもの（住みやすいまち・製品・環境など）」について独自のデザインを考えることができますが、「自分が」というより「みんなが（障がい者も高齢者も子どもも）使いやすい」という視点で考えることで、ともに生きる心が育まれます。また、「自分たちにできることは何か」など、積極的な関わりへのきっかけづくりにもなります。

また、調べる場所については、建物などのハード面でもよいですが、自分の持ち物の中から探してみるという方法もあります。

【表 3】 ユニバーサルデザインの7原則

ユニバーサルデザインの7原則

1. 誰でも使えて手にいれることが出来る(公平性)
2. 柔軟に使用できる(自由度)
3. 使い方が簡単にわかる(単純性)
4. 使う人に必要な情報が簡単に伝わる(わかりやすさ)
5. 間違えても重大な結果にならない(安全性)
6. 少ない力で効率的に、楽に使える(省体力)
7. 使うときに適当な広さがある(スペースの確保)

ケ 身近な課題の調べ学習

私たちの身近に起こっている出来事を知ることから、地域の問題や困っていること、特徴などが分かってきます。また、地域で活動している市民と接することにより、福祉への関心を高め、「自分にできること」を考えるきっかけを作ります。特定の話題を予め設定しない場合には興味関心のある課題の抽出から行います。

《課題の抽出方法》

この実践の目的は課題解決ではないので、必ずしも答えを見つける必要性はありません。また、正解・不正解はないので、ディベートにならないように注意が必要です。

【例1:新聞の3面記事や近郊版の記事など、数週間分を題材に調べる。】

- | | |
|------------|---------------------------|
| •高齢者の話題 | •障がい者の話題 |
| •児童・子育ての話題 | •環境の話題(ゴミ問題、地球温暖化、人口問題など) |
| •その他 | |

【例2:自分たちの住んでいる市にはどんな活動をしている人がいるのだろうか。見つけ出してみよう!】

探すための資源としては、市役所、市社協、ささえ愛センターなど(インフォメーションの P34、35、50～54をご覧ください)を活用する方法、子どもたちが地域でよく見かける活動をピックアップして、活動の目的・内容などを調べるという方法もあります。

また、調べ学習後、活動者へのインタビューなどに発展することもできます。

㊤ 地域の活動者・団体 例 ㊤

- | | |
|---------------|-----------------|
| •地域のおじさん・おばさん | •安全・安心まちづくりボニター |
| •ボランティア | •地区社協 |

【例3:〇〇にインタビュー】

家族や友達、先生など、身近な人に「困っていること」「不便なこと」「直してほしいこと」をインタビューすることで課題を見つけます。

友達のことや先生のこと、勉強のことなど、子どもにとっての身近な課題は多様化しています。課題が「福祉」に限定される可能性は低いため、ある程度のテーマを指定して、課題を絞る必要があります。

場合によっては、課題を1つに絞ったり、KJ法などにより、分類化していく必要もあるでしょう。

アレンジ

テーマ「学校の登下校で不便だなあ・困ったなあと思うこと」

〈環境やインフラの問題〉

- ・道が狭すぎて、車が危ない
- ・信号が早くかわって青信号が短い
- ・学校までが遠い
- ・学校まで坂道ばかりで大変

先生:みんなの登下校には「危険」なことがたくさんあるんだね(発見・確認)
みんなが安全に登下校できるように活動してくれている人たちを知ってる?(次へつなげる)

〈モラルの問題〉

- ・放置自転車がたくさんあって歩きづらい
- ・通行禁止なのに車がたくさん来る

登下校を見守る「地域のおじさん・おばさん」について調べてみよう!!
(ボランティアや地域に関する学習)

〈個人の問題〉

- ・忘れ物をとりに行けない
- ・集団登校で遅刻の子がいて大変

先生:どうして遅刻してしまうのかな?みんなもそういったことはなかったかな?(福祉的な問題でなくとも否定しない。また、問題解決をする場ではないため、ここで討議をしない)

コ 福祉に関連する学習内容

教科等の学習において、本来の教科指導や単元の目標を充分達成しながら、教材等、取り扱う学習内容から、福祉に関連する学習に無理なくつなげていくことや発展させていくことができるものがあります。子どもたちの興味や関心の深まりを大切にしながら、福祉学習として単元を設定していくことができます。

【例:小学校3年生 国語科

単元名「よりよい暮らしについて話し合おう～もうどう犬の訓練～」の場合】

〈教科の目標〉

- ・盲導犬の働きに関心を持ち、進んで文章を読んだり、知りたいことを話したりしようとする
- ・盲導犬について調べて分かったことを、相手に伝わりやすいように工夫して話し合うことができる
- ・事柄の順序に注意しながら、書かれていることを段落ごとに正しく読み取ることができる

〈単元の流れ〉 14 時間完了

- 第1次 教材文を通読し、学習全体に見通しを持つ。
第2次 「もうどう犬の訓練」を読み取る。
第3次 これまでの活動や生活を振り返り、よりよい暮らしに関して話し合うテーマを決め、準備をする。
第4次 グループで話し合い、分かったことをまとめる。

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 子どもの興味や関心の深まり ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

【新たな疑問、もっと調べていきたいこと等】

- ・実際に盲導犬やその活用している様子をもっと知りたい
- ・目の見えない人たちのために、盲導犬のほかにどんなことが行なわれているのだろう
- ・目の見えない人には盲導犬がとても大切だけど、ほかの障がいでは、どんなことが役に立っているのだろう
- ・ぼくたち、わたしたちにできることにはどんなことがあるか知って、やってみたい

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ 学習のつながり・学習の発展 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

【新たな福祉に関する学習へ】 ○時間完了

- ・盲導犬を訓練している人や一緒に生活している人から話を聞こう
- ・「ユニバーサルデザイン」について調べよう
- ・みんなで「点字」で本にまとめよう

など

国語科や社会科をはじめ、教科・特別活動・道徳の学習内容や扱う教材から、福祉学習に関連するものを探り、整理しておく、発達段階に応じて、計画的に単元を設定することができます。

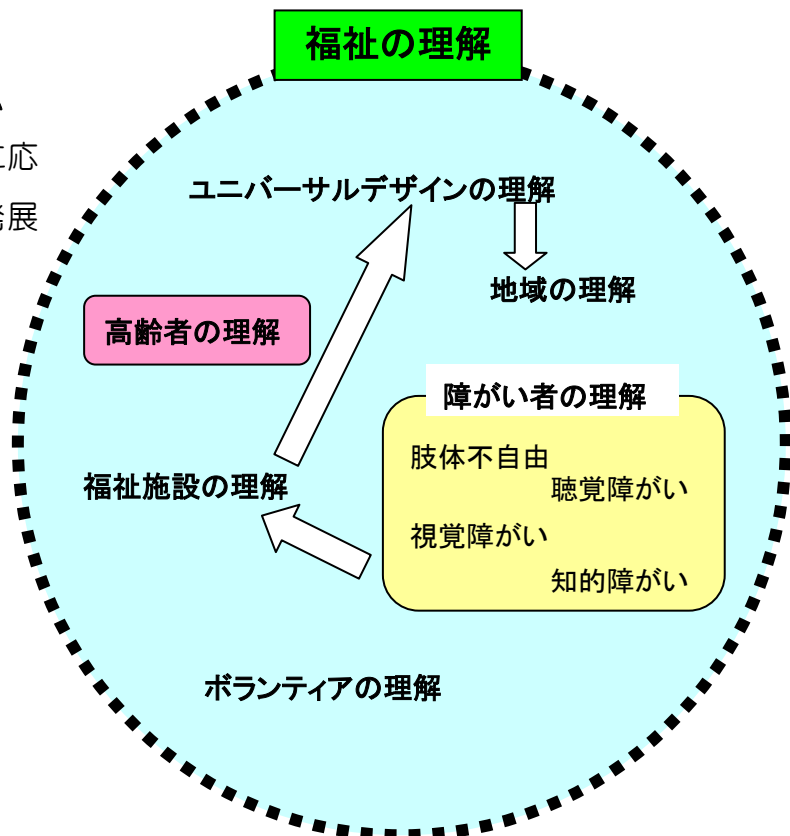
(3) 振り返り学習(取り組んだ内容をまとめよう)

事前学習⇒実践のあとは、感想文を書いて終了するのではなく、話し合いで感想を共有したり、グループワークなどで学んだことをまとめたり、これまでの学習の振り返りを行うことが重要です。

この振り返り学習から、また次のステップへとつなぐことで、より「支え合い」「ともに生きる」大切さを身近に感じたり、福祉への理解を深めていくことができます。

これまで提示してきた事前学習から実践の項目には、障がいや高齢者の理解などの分野別の分類を記載してきました。全ての分類はそれぞれ共通する内容があり、振り返り学習の内容によっては、違う分類の学習へとつなぐこともでき、さまざまな角度から福祉学習をすることも可能となります。【図3】

図 3 つながるプログラム
(学習目的や発達段階に応じて、どの分類にでも発展
することができます)



ア 主な振り返り学習

- (ア) 体験文作成
(イ) 学習発表
(ウ) グループワーク
(エ) ワークシート作成(個人ワーク)

4 こんな方法もあります

前章では、事前学習・実践・振り返り学習のプロセス順にそれぞれの学習素材を紹介してきましたが、この章では、一覧表にまとめ、学習の目的に応じて自由に選択できるよう工夫しました。また、素材の組み合わせ例として6つのプログラムを紹介しています。

(1) 学習素材一覧

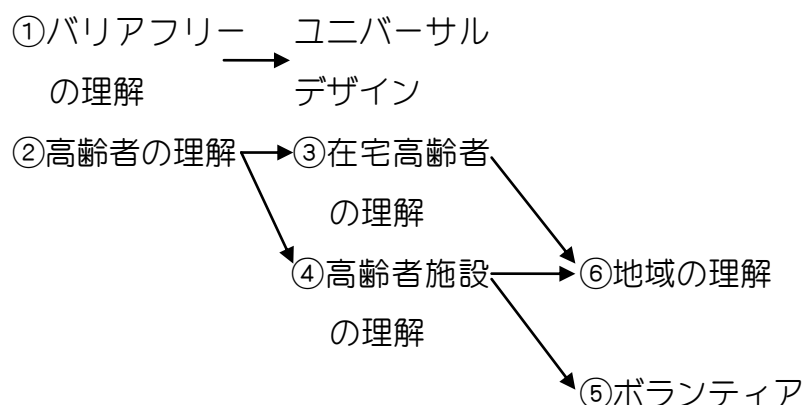
この一覧表は、学習プロセスを3区分(事前学習・実践・振り返り学習)に分けて表記してあります。それぞれのプロセスは前後する場合もあり、学習の進め方は自由に考えていくものとします。

また、それぞれの素材は、P3で紹介した7つの分類項目別に掲載しています。それぞれの分類は実線で区切られた横方向の項目の組み合わせが基本的に考えられる組み合わせとなりますが、実際の学習においては、同じプロセスの違う項目を採用することも可能です(様々な組み合わせの工夫ができます。)

(2) プログラム例

学習素材の組み合わせ例として、①～⑥のプログラムを例示しました。それぞれのプログラムは独立したものですが、最後の振り返り学習により、次のプログラムに取り組むきっかけを想定してあります。【図4】

【図 4】 6つのプログラム例における 複数プログラムへの取り組みの流れ



学習素材一覧

分 類		事前学習	参 照	実 践	参 照	振り返り学習
吉社の理解		「福祉」って何だろう？	P5《ア－1・2・3》 P6《イー（ア）（イ）》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－1・2・3・4》	福祉の職場体験	P11－イ	体験文作成 学習発表 グループワーク ワークシート作成 （個人ワーク）
		「違い」って何だろう？		施設職員の講義（体験談）	P14《カ-（イ）－1～7》	
		いきいき人生度チェック		疑似体験・福祉体験	P10《ア-1～12》	
		家族やクラスでの役割を考える		バリアフリーの調べ学習	P16《キ-（ア）－1～16》 P17《キ-（イ）－1～14》	
		自分と友達の色を考える		ユニバーサルデザインの調べ学習	P18《ク-（ア）－1～8》	
・がい者の理解		社会と自分を見る	P5《ア－2・4・5・6・7・8》 P6《イー（イ）（ウ）》 P7《イー（エ）（オ）（カ）》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－1・2・3》	身近な課題の調べ学習	P20・21《ケ》	
		福祉教科の選定		P22《コ》		
		「障がい」って何だろう？		当事者の講義（体験談）	P13《カ-（ア）－1～13》	
		どんなことを不便と感じているか？		介助体験		
				バリアフリーの調べ学習	P16《キ-（ア）－1～16》 P17《キ-（イ）－1～14》	
				ユニバーサルデザインの調べ学習	P18《ク-（ア）－1～8》	
		障がい者スポーツについて		障がい者スポーツ	P13－イ	
				マップづくり		
		交流会の企画		交流会		
		肢体不自由		「手や足が不自由であること」とは？		
	視覚障がい	「車いす」とは？	車いす体験			
		車いす利用者のための設備について				
		視覚障がい者の生活について		P12《ア-1～3・6～12》		
		「目が見えないこと」とは？				
	「点字」とは？	点字体験				
	聴覚障がい	身近にある点字	日常生活用具			
		視覚障がい者のための設備について	ガイドヘルプ体験			
		「盲導犬」とは？	盲導犬			
		聴覚障がい者の生活について	日常生活用具			
		聴覚障がい者とのコミュニケーション方法				
		「耳が聞こえない・しゃべれないこと」とは？				
		聴覚障がい者のための設備について				
「手話」とは？		手話体験				
知的障がい	「中途失聴」とは？	要約筆記体験				
	「知的障がい」とは？					
	・齢者の理解	お年寄りについて 自分の身近にいるお年寄りについて	P5《ア－2・5・7・8・9・10・11》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－1・2》	当事者の講義（体験談）	P13《カ-（ア）－5・7・8・12》	
介助体験				P12－オ		
高齢者の知識・知恵を学ぶ						
居宅訪問						
介助者（支援者）の講義（体験談）				P16《キ-（ア）－2・3・8～15》 P17《キ-（イ）－1～14》		
バリアフリーの調べ学習		P18《ク-（ア）－1～8》				
ユニバーサルデザインの調べ学習		P10《ア-4・5》				
シルバー疑似体験						
交流会						
福祉・設の理解		どんな施設があるか 自分たちのまちを知る		P5《ア－2・12》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－5》 インフォメーションP36～47	社会福祉施設訪問	P11－イ
	福祉行事サポート		P11－ウ			
	職員による講義		P14《カ-（イ）－1～7》			
	交流会の企画	交流会				
・域の理解	自分たちのまちを知る	P5《ア－11・13》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－4・5》	行事の手伝い			
	社会と自分を見る		バリアフリーの調べ学習	P17《キ-（イ）－1～14》		
			当事者（活動者）の講義（体験談）	P13《カ-（ア）－6》		
・ニバーサルデザイン	「バリアフリー」とは？	P5《ア－7・8・14・15》 P7《イー（エ）》 P8《イー（ク）》 P9《ウ－3・5》	バリアフリーの調べ学習	P16《キ-（ア）－1～16》 P17《キ-（イ）－1～14》		
	「ユニバーサルデザイン」とは？		ユニバーサルデザインの調べ学習	P18《ク-（ア）－1～8》		
・ランティア	「ボランティア」とは？	P5《ア－16・17》 P8《イー（キ）（ク）》 P9《ウ－6》	社会福祉施設訪問	P11－イ		
	知っているボランティア活動を挙げる		福祉行事、地域行事サポート	P11－ウ P11－エ		
	自分にできるボランティア活動を考える		ボランティアにインタビュー			
			ボランティアによる講義（体験談）	P14《カ-（ウ）－1～6》		

プログラム例① バリアフリーの理解(ユニバーサルデザイン)

区分	学習内容		ポイント
事前学習	バリアフリーとは？ (下調べ)	(1)バリアフリーについて調べよう！ ①インターネット②図書③辞書 など	・言葉の意味を知るとともに、物理的なバリア(障がい)を知る
		(2)もしも〇〇(目が見えない、耳が聞こえない、歩くことが困難、高齢者など)だったら日常生活はどのようなものか考えてみよう！ ①家の中にある家具や設備 ②学校内の環境や設備など ③外出する場合(〇〇へ行くとしたら)	・目を閉じたり、耳栓をしたりして感じる・考える・イメージする
実践1	シルバー疑似体験(障がい者体験)	総合福祉センターへ行ってみよう！ ①車いす②ガイドヘルプ(視覚障がい体験)③耳栓(聴覚障がい体験)④高齢者疑似体験	・公共施設の館内を疑似体験を通して利用しやすいかどうかを体感する
学習1 振り返り	グループワーク	総合福祉センターのチェックをしよう！ ①使いやすいか(バリアフリーになっていたか) ②どのような工夫がしてあったか、無かったか	・個人の感想を発表し、共有する ⇒地域の環境にバリアがあるのかどうか
実践2	インフラの点検	地域を探検してみよう！ ①公共施設②デパート③町内の道路や環境	・普段、利用している場所をバリアフリーの視点でチェックする
学習2 振り返り	学習発表	(1)バリア(困難なこと)があったかな？ (2)バリアフリー環境があったかな？	・事前の予測と比較して、グループごとに発表する(意識の変化や気づいた事を話し合う)
実践3	当事者の講義(体験談)	(1)日常生活における不自由さ・困難なことについて (2)日常生活の補助具について	・体験し、実感したバリアを当事者の人たちはどのように考え、対応しているのかを知る
	マップ作成	バリアマップを作ってみよう！ ①坂や段差を調べる ②交差点やミラーを調べる ③歩道の有無を調べる など	・身近な地域にあるさまざまなバリアの存在に気づき、他者のことを思いやり、理想のまちについて考える ⇒ユニバーサルデザインに続く

プログラム例② 高齢者の理解

区分	学習内容		ポイント
事前学習	自分の身近にいる高齢者 (下調べ)	(1)高齢者ってどんなイメージの人？ (2)高齢者の得手、不得手を考えよう！	・高齢者を改めて考えることで、どのような存在なのかを知る ・個人ワーク(身近な高齢者を探す・好きな物語に出てくる高齢者を探す・好きなところ・苦手なところ等)
	グループワーク	(1)高齢者ってどんなイメージの人？ (2)高齢者の得手、不得手を考えよう！	・グループワークで意見を共有する ⇒元気な高齢者・介護の必要な高齢者など、さまざまなイメージを出す
実践	介助者(支援者)の講義(体験談)	地域包括支援センター職員から、高齢者の生活を聞こう！ ①春日井市内の高齢者の状況 ②いろいろな福祉サービスの利用(在宅サービス・施設サービス) ③高齢者との関わりで感じたことなど	・高齢者の生活(身体状況からくる特徴)とその生活の形態(在宅・施設)を理解する
振り返り学習	グループワーク	高齢者の生活を考えよう！ ①年を取るってどういうこと？ ②自分たちが高齢者にできる事ってなんだろうなど	・振り返りをもとに、在宅と施設のどちらをイメージするか決める

プログラム例③ 在宅高齢者の理解

区分	学習内容		ポイント
事前学習 1	交流会の企画	地域の歴史や遊びを教えてもらおう	・学校にきてもらう方法や、声がけする人の選定に注意する ⇒老人クラブや民生委員に情報提供依頼など
実践 1	当事者の講義(体験談)	(1)地域の昔の姿を教えてもらおう	・高齢者のイメージを固定化しないように、高齢者の能力を知る
	高齢者から学ぶ	(2)伝承遊び等を一緒に楽しもう！	
振り返り学習 1	体験文作成(体験文集作成)	(1)交流会の感想を書こう！	・高齢者をどのように感じたのかを自分の言葉にする ・交流会の前と後の意識の変化の有無を確認する
		(2)交流会に来ていただいた高齢者に文集を贈ろう	・高齢者の住所などへの配慮や手渡しの可否を確認する ⇒今後の定期的なやりとり(友愛訪問や学級新聞など)の可能性につなげる
事前学習 2	自分の身近にいる高齢者	ひとり暮らし高齢者の実態を知ろう！ ①市内に何人いるか ②町内に何人いるか ③自分の知っている高齢者は何人いるか	・交流会にきた高齢者以外にも多くの存在を意識する
実践 2	交流会	民生委員さんと交流しよう！ ①ひとり暮らし高齢者の数 ②高齢者との関わりについて ③民生委員の役割について	・民生委員の担当エリアごとにグループに分かれ、友愛訪問の方向づけをおこなう ・訪問世帯の調整は、民生委員に依頼する
振り返り学習 2	グループワーク	友愛訪問の準備をしよう！ ①どんな話が好きか・どんな話をしたいか ②手紙や自分のプロフィールを考える	・訪問する高齢者のイメージを予めつくっておく(ひとり暮らしで、話し相手を求めている など)
3 実践	居宅訪問	民生委員と一緒に友愛訪問しよう	・訪問の人数や、日時の調整を地区民生委員協議会と行う
振り返り学習 3	学習発表	①友愛訪問について話し合おう(高齢者ってどんな人だったか) ②民生委員について考えよう	・グループでまとめて、発表する ・地域には、さまざまな人が生活し、援助している人もいることを考える ⇒地域の理解に続く

プログラム例④ 高齢者施設の理解

区分	学習内容		ポイント
事前学習	どんな施設があるか (下調べ)	(1)高齢者施設の種類について調べよう！ (2)市内の高齢者施設について調べよう！ ①インターネット②図書③辞書等	・入所施設と通所施設があることに気づく
	グループワーク	(1)調べた内容をグループで発表 (2)どのような高齢者が施設で生活しているのかを話し合う	・高齢者施設のイメージを具体的に持つ
実践	施設訪問 《職員の講義(体験談)・ボランティアの講義(体験談)》	(1)施設を知ろう ①施設見学 ②職員の講話 ③ボランティアの講話等	・施設は生活の場であることに注目する ・受け入れ施設の状況によっては、小人数のグループによる訪問も要検討
		(2)施設利用者と交流しよう ①器楽演奏等の発表 ②ゲームや朗読会の開催等	・利用者からの話だけではなく、職員や援助しているボランティアの内容や気持ちなども理解する
振り返り学習	体験文作成 (体験文集作成)	(1)施設を訪問してどうだったか？	・施設のイメージは変わったか、施設での生活をどのように感じたか、なぜ施設での生活を送っているのかという視点を持つ
		(2)文集を施設に贈ろう	・施設利用者個人への手渡しではなく、施設へ贈呈する
	個人ワーク	自分にもできるボランティアって何だろう	・施設ボランティアの講話から、その価値観や自分との関わりを考える ⇒ボランティアに続く
	学習発表	①訪問してどうだったか(施設ってどんな所だったか・利用者はどんな生活だったか) ②ボランティアについて考えよう	・グループでまとめて、発表する ・地域には、さまざまな人が生活し、援助している人いることを考える ⇒地域の理解に続く

プログラム例⑤ ボランティア

区分	学習内容		ポイント
事前学習	知っているボランティア活動を挙げる	(1)どんなボランティア活動があるか (2)自分の周りにあるボランティア活動を調べよう ①インターネット②図書③辞書など	・国際交流ボランティアや清掃ボランティアなど多岐にわたる活動とその広がりを知る
実践	介助者(支援者)の講義(体験談)	市社協ボランティアコーディネーターの講話 ①ボランティアって何？ ②春日井市のボランティア事情 ③なぜボランティアをしているの？	・ボランティアはだれでもできる、特別なことではない視点を伝える
振り返り学習	グループワーク	ボランティア活動を行う準備 ①施設ボランティア体験、地域(行事)ボランティア体験などを選択する ②何が自分たちでできるのかを検討する	・地域ボランティア体験は地区社協の事業への行事ボランティアを検討する ⇒市社協へ相談
実践	社会福祉施設訪問	①施設ボランティア体験	
	福祉行事サポート	②地域(行事)ボランティア体験など	・受け入れ側との事前打ち合わせを行う
振り返り学習	学習発表	①施設訪問してどうだったか(高齢者ってどんな人だったか) ②ボランティアについて考えたこと	・グループでまとめて、発表する ・地域には、さまざまな人が生活し、援助していることを考える ⇒地域の理解に続く

プログラム例⑥ 地域の理解(私たちを支えてくれている人)

区分	学習内容		ポイント
事前学習	自分たちのまちを知る(支えてくれている人)	(1)知っているかな?これらの人! ①インターネット②図書③辞書など	・あらかじめ、主だった地域の活動者リストを作っておき、調べさせる ⇒インフォメーション参照
	グループワーク	(1)調べた内容をグループで発表 (2)私たちの身の回りにこれらの人はいるかを話し合う(自分の地域に地区社協はあるか)	・地域活動は、目立つ活動ばかりではない ・日常生活の中で意識して見ないと気づかないことを知る
実践	当事者(活動者)の講義(体験談)	(1)活動者からの講話 ①活動の実際 ②どうして活動に参加したのか	・異なる複数の活動を聞くことで、多くの人たちに自分たちは支えられていることに気づく
振り返り学習	体験文作成	気づかないところで支えてもらっていたことについて	・これまで意識しなかったさまざまな活動が身の回りにあり、その根本には地域の支え合いの考えがあることに気づく